都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	野田市（のだし）	地区名	次木親野井周辺地区（なみきおやのいしゅうへんちく）	面積	42 ha

計画期間	平成 18 年度 ～ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ～ 平成 22 年度

目標

大目標・・・関宿中央ターミナルを中心とした関宿地域における中心市街地としてのまちづくり。
目標１・・・良好な住環境整備による人口の定着を図る。
目標２・・・ターミナルの機能向上、安全で明るい歩行者空間の創出を図り賑わいのあるまちづくりをする。
目標３・・・道路整備による交通機能を高め渋滞を解消し地区へのアクセス性を向上させる。
目標４・・・わかりやすい住居表示板や街路灯・防犯灯の設置を行うことで居住者・訪問者にやさしくて安全なまちづくりをする。
目標５・・・県際都市として、隣接県とのネットワークを強化したまちづくりをする。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

野田市における関宿地域については、３つの飛び市街地から形成されている。次木親野井周辺地区は、市街化区域全体で２８８haの中で、約６割、１７７haの面積をもつ宝珠花市街地に位置する。西は埼玉県にアクセスする宝珠花橋、東は茨城県にアクセスする下総大利根橋があり従来から両県との結びつきが強い地区でもある。

近年においては主要地方道結城野田線沿いの商業地は、混在型の土地利用になりつつある。一方、事業を進めている次木親野井土地区画整理事業地内のセンター地区(５．８ha）については、平成９年関宿バス中央ターミナル(交通広場約０．４ｈａ）の供用開始や大型店舗の進出など、商業業務施設が形成されるつつある。特に関宿中央ターミナルについては、関宿地域における唯一の公共交通がバスであることや平成１５年度の合併を機に野田市営によるまめバスの運行開始してることからも関宿地域の顔といえるような施設である。

また、関宿地域の道路環境は主要地方道結城野田線と主要地方道我孫子関宿線を南北軸として形成されているが、関宿地域は県際都市ということから通過交通が多く市街地が慢性的に渋滞している。

総合計画等の上位計画において宝珠花市街地は関宿地域の中心核として位置付けられているが、平成１１年の住民基本台帳からのデータによると、旧関宿町全体の人口は平成元年と比較して９％増加しているのに対し、本地区を含む宝珠花市街地地区は４％の増加となっており、他の地区と比べ人口の増加は鈍化している。今後関宿地域の中心市街地としての役割を担っていくには商業業務施設の充実や住環境の整備による人口の定着が必要とされる。

課題

・関宿地域の中心核としての役割を担うにはさらなる住環境の整備による人口の定着が必要である。
・本地区の賑わいを創出するため、商業業務施設の集積を図る必要がある。
・関宿地域内における通過交通による市街地での交通混雑の緩和が必要である。

将来ビジョン（中長期）

本地区は、「関宿町都市計画マスタープラン」において商業空間と居住空間が隣接する中心市街地として位置付けられている。また当地区内の都市計画道路次木古布内線は「関宿都市計画　都市計画の区域、開発及び保全の方針」(区域マスタープラン）において概ね10年以内に整備する道路として位置付けられている。

このことからも、関宿中央ターミナルを中心に、交通基盤を整備し、商業業務施設をもつ中心核を形成し、多彩な人々を集客できる歩行空間をもつまちを目指す。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
居住人口の増加	人	地区内の居住者数	住環境の整備による居住人口の定着を図る。	976	17	2400	22
商業業務面積	㎡	地区内の商業業務施設の延べ床面積	関宿地域の中心市街地としての機能を担うために商業業務施設の集積を図る。	2891	18	4000	22
区域内の幹線道路密度	km／km²	1km²当りの都市計画道路の整備延長（地区内幹線道路延長÷地区面積）	県際都市である当地区では、通過交通が多くその円滑な処理が求められる。そこで地区内の都市計画道路を整備し、県際都市として隣接県とのネットワーク強化を図る。	1.4	18	3	22